

### ICTを活用した実習報告会の実施

ICTを活用し、デイサービス実習の報告会を行った。発表者は、事前に作成した資料をタブレット端末に取り入れタブレット端末を操作しながら、発表をした。会場には、スクリーンに映し出しているため、会場内で情報の共有を図ることができた。また、発表時間が4時間と長丁場ではあるが、司会進行者と教員との連絡・指示についてもネット環境を活用しタブレット端末で行ったため、教員が司会進行者のもとに行くことなく生徒が主体となった報告会になった。

#### ICT活用のポイント

発表者2名いる場合、それぞれの役割を明確にしておき、説明する人とタブレット端末を操作(スライドを進める、拡大・縮小)する人で連携する。タブレットを見ながら発表するのではなく、すべて暗記し「伝える」ことをポイントとした。



<第1学年 福祉科>



介護総合演習 (動画約30秒)

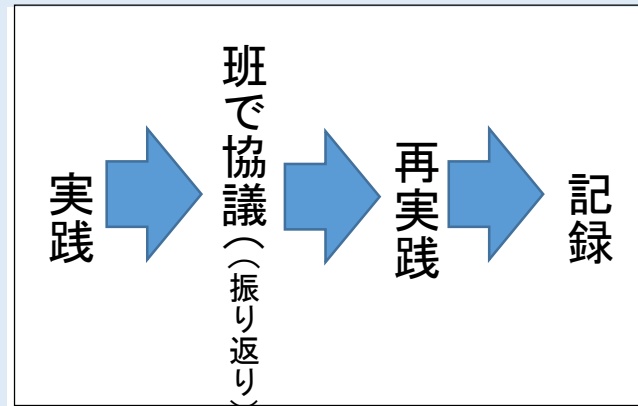
### ICTを活用した介護技術の向上


生活支援技術において、実技介助の実習をする際、タブレット端末を用いて介助をしている風景を撮影し、実施後動画を見ることで振り返りを行うことができる。自らの動きを可視化することができるため、多角的・多角的に技術を習得することができた。また、班別協議では動画を繰り返し見ることによって、どこが正しく間違っているのか、どのようにすれば良いかを他者と共有しながら、班員全員の理解が深まることに繋がっている。その際、教員は巡回しながら各班に応じた声掛けをすることで学びが深まるよう促している。

＜第1学年 福祉科＞

#### ICT活用のポイント

実習後は生徒が撮影した動画を教員が見ることで、学びの確認ができる。また、実技テストでも撮影を行い、生徒に評価指導する際、タブレット端末の動画を見せることでより具体的な理解を促すことができる。



 動画 (約15秒)



生活支援技術 (動画約20秒)

実践し、動画を見て、班で協議することで学びが深まる。

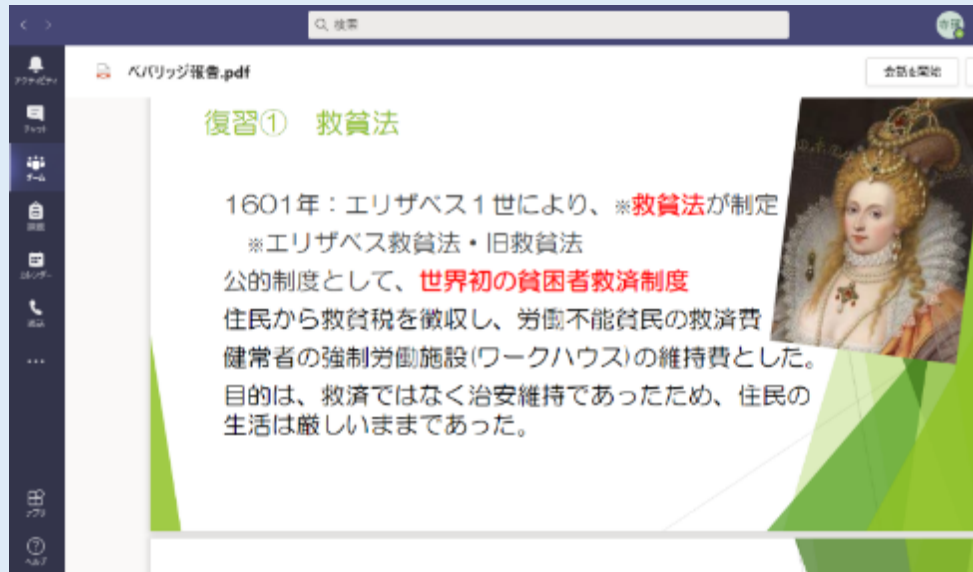
### ICTを活用した授業の復習（資料配布）

生徒に伝える情報をTeamsのファイル内にPDFとして投稿することで、各家庭でいつでも閲覧することができるようにしている。具体的には、授業で使用したパワーポイント資料や学級通信である。生徒は、授業の振り返りを自宅で行うことができ、学びの再確認をすることができる。また、白黒でなく、カラーで閲覧することができることでわかりやすい上、ペーパーレス化することが可能である。このことで、支援を要する生徒への合理的配慮の一助となる。また、保護者に学習内容や学級通信を通じて学校の学びの内容や連絡事項を確実に伝えることができるという利点もある。

### <第1学年 福祉科>

#### ICT活用のポイント

紙ベースでなく、Teams上で閲覧することができるため、スクリーンショットをすれば、離れて暮らす保護者にもカラーで見ただけことができる。授業の振り返りをすることができ、復習教材となっている。



社会福祉基礎



学級通信